

心臓核医学分野での 医療情報の標準化

～SEAMATを用いたビッグデータ構築に向けて～

2018年3月25日(日) 12:20～13:10

第15会場(リーガロイヤルホテル大阪 タワーウイング 2F 牡丹)
〒530-0005 大阪市北区中之島5-3-68

座長 中村 淳 先生 新東京病院 院長

演者 竹花 一哉 先生 関西医科大学 内科学第二講座 講師

ランチョンセミナーは
整理券制です。

- ◆ランチョンセミナーは整理券制です。整理券をお持ちの方から優先的に入場いただきます。
- ◆当学術集会ホームページにて、共催セミナープレジストレーションを行います。(12/25～2/22予定)
共催セミナープレジストレーションへ登録するには、学術集会プレジストレーションが必要です。
開催当日も整理券の発行を行います、数に限りがございますのでご了承ください。
- ◆チケットはセミナー開始5分後に無効となりますのでご注意ください。

配布場所：大阪国際会議場、リーガロイヤルホテル大阪 配布時間：3/19 7:00～11:50(予定)

※当日配布券の時間は変更となる場合があります。



心臓核医学分野での医療情報の標準化

～SEAMATを用いたビッグデータ構築に向けて～

竹花 一哉 関西医科大学 内科学第二講座 講師

疫学的研究を行う場合、患者情報・生理学的検査・画像検査から得られる計測値等のデータが多様な形式で存在するため、出力形式の標準化が望まれている。また、循環器領域においては、他分野に比べ研究用途に用いるビッグデータの作成が遅れている。これは循環器疾患の診断・治療方針の決定には多くの検査データを統合的に使用するという疾患の特性が、研究者の介在がなければデータ集積が困難であるという背景があったことが原因であったと考えられる。他方、計測器メーカーでは、計測値等データ出力できる機能があってもその保存形式が多様であるため、データ保存ができないという問題があり、昨今求められているビッグデータの構築のためには、各臨床施設において人海戦術を用いた手作業を要するのが現状である。

そこで、日本循環器学会(JCS)では2014年総会時の理事会において、循環器領域検査データ標準化小委員会を発足し、医療情報標準化活動の中で疫学的研究を行うためのデータ形式標準化の具現化について参画メーカーの賛同も得て作業を行ってきた。これまでに、保健医療福祉情報システム工業会(JAHIS)と整合を取りながら作業を行い、世界標準であるHL7CDA R2形式での標準仕様とした保存形式を目指した。

一方、循環器領域にはサブスペシャリティーに関する様々な学会が存在し、その多様性を統一する困難であったが、実際のところこれら学会においても総論

賛成という意見が大勢を占め、複数の学会が追随、承認するところとなった。さらに、出力項目選定が難航しそうになったが、まずは市中病院でも対応可能な一般的な項目を優先すること、今後希望があれば学会ごと申請を提出することで拡張を担保することなどにより意見の統一がはかれ、2015年のJCS理事会において学会標準(JCS標準)と認定され、心電図・心臓超音波・心臓カテーテルについて、JCS データ出力標準フォーマット(SEAMAT: Standard Export data for MAT)が公開された。これは計測項目を、HL7CDAに格納し、そのHL7CDAファイルとMFERやPDFなどの添付ファイルをSS-MIX2拡張ストレージ構造に出力する形式を規定したもので、それぞれの領域での出力検査項目が規定されている。

心臓核医学の分野においても、日本心臓核医学会(JSNC)においてSEAMATへの出力する項目が2016年に決定された。これら項目のうち、SSS、SDSなどのSPECT画像評価項目については視覚的半定量を用いた評価ののちに出力することが必要であるが、心電図同期法から得られる心機能評価項目については、Heart Risk Viewなどの処理ソフトウェアからの直接SS-MIX2に出力できるように設定を行った。このことにより、疫学的研究が活性化され、また循環器疾患の多くのビッグデータに心臓核医学検査が貢献できることが期待される。